

## 会 議 録

会 議 名 (審議会等名)		平成22年度生涯学習センター第1回運営委員会	
事 務 局 (担 当 課)		教育振興部 生涯学習センター 内線4567(757-8481)	
開 催 日 時		平成22年12月17日(金)10時00分~	
開 催 場 所		生涯学習センター 講義室1	
出 席 者	委 員	大塚啓子、大音裕子、山本房子、大崎喜弘、山本 朗、 安藤真弓、田口 進、渡瀬順之  (欠席)堀田啓子、常行貞臣	
	その他	教育長	
	事務局	河野晃久、喜田由加里、藤原育子	
傍聴の可否		可 ・ 不可 ・ 一部不可	傍聴者数 1 人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第		開会、挨拶、自己紹介  報告事項 (1)平成22年度レフネック第17期生の応募結果について (2)平成23年度レフネック事業計画について 本科 オープン講座 課外講座 (3)平成22年度レフネック第16期生の修了式について (4)生涯学習センターの利用状況について (5)その他	
会議結果		別紙審議経過のとおり	

## 審 議 経 過

1. 開会

2. 挨拶

3. 運営委員自己紹介

4. 報告事項

(1) 平成22年度レフネック第17期生の応募結果について

事務局

レフネック第17期生募集につきましては、往復はがきにより募集したところ各学科70名の定員に対して応用工学科115名(応募倍率1.6倍)、文学・文化学科213名(応募倍率3.0倍)となり、合わせて2.3倍となりました。

4月17日に委員長、副委員長の立会いのもと公開抽選を行い、入学者140名を決定しました。1年次の応用工学科は、レフネックに一度も入学出来なかった方に対する優先枠の20人に対して、6人の応募があり全員入学となりました。しかし、文学・文化学科は、優先枠の20人に対して26人の応募がありました。そこで運営委員会でも以前諮ったとおり優先枠対象者26人に対しては一度抽選を行い20人を決め、そこで当選されなかった6人の方は、一般抽選に回っていただきました。なお、平成15年度から70名の定員になった15学科のうち、応募倍率が2倍を超えた学科は、平成17年度西洋史学科の2.9倍、平成19年度心理学科の2.6倍、平成21年度文化人類学科の2.6倍で、今回で4回目となります。また入学式は5月15日に実施しました。5月22日から1年次応用工学科と2年次の文化人類学科、経済・経営学科が、5月29日から1年次文学・文化学科が講義を開始しました。そして、文化人類学科と経済・経営学科は11月20日、応用工学科と文学・文化学科は12月4日で講義は終了いたしました。

運営委員 文学・文化学科の入学者数の優先枠20名のところで、19名というのは。

事務局 1名辞退されました。

運営委員 応用工学科の男女の比率で極端に女性6名とは少ないのですが、これほどのような要因が考えられますか。過去に工学系のプログラムをだされていたと思いますが。

事務局 理科系に関しては男性の方のお申込みが今回も多く、過去の例では第11期地球科学科の場合、男性57名女性13名と男性が多い経過もあります。逆に文学・文化学科は女性の方が多いということになります。

運営委員 どうしても理科系に関しては男性の方が興味があり、男女差があつてある種いたし方ないと思います。男女差があるからといってその科目を排除していくことは出来ないと思います。

運営委員 ネーミング、タイトルのつけ方で、私は先端工学を受講したことがありますが、生活に役立つとか身近なところとか、そういう要素を含んでいると女性もとても興味深くもてるような記憶があります。ネーミングに工夫

をつけると女性が増えるものなのか、それとも興味の対象は片寄せざるをえないのでしょうか。

運営委員 ネーミングのつけ方もあるかもしれませんが。キャッチフレーズによって人は受け取り方が違うと思います。

事務局 ネーミングで左右される部分もあるかもしれませんが、入学案内冊子を配布させて頂き、より詳細な内容を説明できるようにし、ご興味のある方はという形でご応募頂いております。

運営委員 レフネックというのは創設以来とにかくレベルの高い、他の公民館講座とは一味違う構成となっているかと思います。

運営委員 公民館の講座にも大学の先生に来ていただいており、先生から「他市は女性が多いですが、川西では男性の参加者が多く男性の学ぶ意欲が高く、他市とは違いますね。」と聞いています。これも川西の特色ではないかと思えます。

運営委員 元気な方が多いということですね。結構なことですが、年齢層は高いですが。

運営委員 過去からみると、参加者の居住別人口は多田地区が多いですね。多田地区の方の関心の高さがでています。

運営委員 立地条件もあると思います。北部や南部の方はバス代や電車代と交通費もかかりますから。

運営委員 レフネックに沢山の男性の方が参加されているのは、一度参加すると他の公民館講座に参加する動機付けになるのでしょうか。

運営委員 そのとおりだと思います。高齢者大学は65歳以上を対象にしていますが、終了したらこちらのレフネックに申込みしたりと、相互作用があると思います。生涯学習を自ら学ぼうとする方が多く、一定の定年を迎えられた方が地域デビューしましょう。という形で申込みされています。

運営委員 繰り返し色々な場で学習をしていこうという方は、コミュニケーションがうまくいっているのではないのでしょうか。

運営委員 抽選に漏れた方の苦情などはないのでしょうか。具体的におしえて下さい。

事務局 文学・文化学科については3倍の応募にもなりましたし、また10年ぶりの文学系ということもあって、楽しみにされていた方も多かったと思います。ただ、この講義室で机と椅子を並べて定員の70名で一杯ですので定員増ということは難しい。

運営委員 抽選ですので仕方ありませんね。

(2) 平成23年度生涯学習短期大学レフネック事業計画について説明

事務局

学課の名称やテーマ、内容に至るまで現在大学との交渉中であり、大筋で調整したのですが確定したものではありません。

新たに募集する1学科「農学科」について説明します。

食料と自然環境は、人類が生きていくうえで極めて重要です。これからも人体に害のない安全で、需要に見合った食料は確保されていくのか、また、国土や生物多様性の維持にもかかわる自然環境も保全されていくのかなど、食と環境の状況を踏まえながら今後のあり方を農業の視点から考えていく講義を展開していきたいと考えております。講師は、神戸大学大学院農学研究科から招聘を予定しています。

もう1学科「文化遺産学科」について説明します。

日本には伝統文化・伝統技術など、すぐれた文化遺産がまだまだ残されています。文化遺産は過去の遺産としてではなく、「将来の文化資源」として多岐にわたる日本の文化遺産の実相を「文化遺産学」として実施したいと考えております。講師は、関西大学文学部を中心に、漆工芸家で人間国宝の北村先生や宮内庁正倉院などから各専門分野の方を招聘する予定です。

続いて、2年次2学科の説明をします。

文学・文化学科は、今年度、京・京都を中心に長い歴史に培われた文化や文学、歴史、風土を古都の魅力について見てきました。来年度は、京都、大阪、神戸に視野を広げまして、関西圏の3大都市の街の味わい、風貌、魅力などを検証していきます。講師は立命館大学をはじめ、プール学院大学や大阪城南女子短期大学などから招聘を予定しており、より幅広い講義を考えております。

次に応用工学科について説明します。

現代工学は自然科学や理学、電子情報や環境エネルギーなど地球全体の諸問題に密接に関連しています。技術革新による企業の経済戦略から地球規模のエネルギー・環境問題という今日の課題に即応するため、様々な表情を持つ現代の先端工学を身近な学問として展開していきたいと思っております。講師は、引き続き大阪大学大学院工学部から招聘を予定しています。

オープン講座について説明します。

150人の定員のうち一般応募者80人、レフネック学生70人が受講するもので、3回～4回の短期間での講座で話題性のある学習内容や講師に依頼しております。

オープン講座1は、6月に4回、脳科学講座「脳と神経のしくみ」を予定しています。神経細胞の興奮性、分泌能、特異な形状、非増殖性など、特別な性質を情報伝達という目的に向けての特殊化という観点から解説する講座を、大阪大学大学院生命機能研究科の小倉教授にお願いしたいと考えております。

オープン講座2は、7月に4回、都市災害講座「巨大災害に備える」と題し、災害の強大化・多様化が進展している現代に、災害の危険性を確認するとともに、事前に備える危機管理や減災についての概念に触れ、具体的な被害軽減対策についての講座を、関西学院大学総合政策学部室崎教授にお願いしたいと考えております。

オープン講座3は、9月から11月の間で3回(仮称)民族講座「日本と韓国の文化」をテーマに日本と隣国の韓国文化について、国立民族学博物

館民族社会研究部朝倉教授にご登壇頂けるよう現在交渉中です。

課外講座について説明します。

パソコン教室は、レフネックに入学する学生が比較的年齢層が高いため、パソコン入門・初級編を1講座ずつ実施するものです。来年度もイラストや写真の編集・貼付けなど、より実務的で要望の多い講座内容を「応用コース」として2コース、合計4コースを計画しております。

なお、今年度に引き続き、外部講師ではなく、レフネックOBから成るパソコンOB会の協力を得て開催したいと考えております。今年度のパソコン教室は、レフネックのOBが講師やアシスタントとしてきめ細かい指導をしていただき、受講生には大変好評を得ています。今日、配布しているレフネックだより21号1面にもその記事が掲載されております。

OB講師も学習の機会を得ることとなり、地域社会での指導者としての更なるステップアップになるとも期待しています。ただ、今年度は入門コースの申込みが5名でした。これは、基礎的なパソコンの取り扱いについては、長年のパソコン教室の実施で底辺が広がっているためと思われます。レフネック修了時には小論文を作成していただくことになっており、ワープロ程度を習得する機会の提供は必要と考えておりますが、今後は課外講座におけるパソコン教室の役割も事務局として考えていかなければならないと思っています。

陶芸入門教室は、一昨年度から新しい先生にご指導をいただいております。作品の出来ばえも期待以上に良く、リピーターの方や陶芸に興味を持ったといわれる方も増えている状況です。

郷土史教室は、これまでは川西の歴史についての講座を実施してまいりました。来年度は川西近隣にも目を向けた郷土史の実施を考えており、今後も市社会教育室職員と協議したいと思っています。

生きがい学習塾は、レフネックの学生が教壇に立って、経験や学習内容などを講義として発表するもので来年度も10回予定しています。生きがい学習塾はよい講師の経験が提供できる場ととらえており、今年度も10人の講師全員が積極的な態度を示され発表されていきました。今後も経験や知識、個性を発揮したすばらしい講義を実施していただけるものと考えています。

最後に報告があります。

最近、講師のご好意で再度、ご指導いただく機会を設ける場合が増えていきます。レフネックの講義の雰囲気や学生の真摯な態度に講師の先生方にご共感頂いているもので、講師と学生の交流が継続されているものと思われます。(国立民族学博物館見学、三菱造船所見学、大阪大学研究棟見学)

運営委員 講義は沢山ありますが、何か講義の記録はありますか。

事務局 入学案内冊子に詳細を掲載しています。

運営委員 紙ベースは残してるが、メディアでは残していないのですか。

事務局 残していません。講義の内容については、講義室の中での講義という条件

で先生に依頼していますのでメディアでの記録はしていません。

運営委員 それは講師側の条件ですか。

事務局 交渉段階で、このような条件でとお願いしています。

運営委員 それでは、受けられた方はその場限り、受けられなかった方は内容は分からないですね。記録を残せるような形は難しいのですか。

事務局 講義の内容については先生のお持ちの研究と考えており、受講者70人に対しての講義としかと考えていません。

運営委員 10年ほど前にも「優秀な、著名な先生方の講義を1回で終わってしまうのはもったいない気がします。ビデオなり、テープなり後日聞くような機会が希望者の方に、もてないでしょうか？」ということで議題があがりました。その時は大学側の意向とか、教授が嫌われるということで流れた経緯はあります。

運営委員 確かに10年～15年前までは、一切ビデオなど記録の持込みを禁止される先生がほとんどでした。ここ数年は、阪大の先生も結構、記録に関しては一切何も問わないという先生がほとんどになっています。それほど漏れるのを嫌われるような内容ではないと思います。内容をみていると必要なことが沢山あって、ある程度確立された内容が多く書かれています。10年経っているので、一度お聞きしてみたらどうでしょうか。

事務局 そのような意見を学生からも聞いています。ただ、各学科によりましては、研究過程の内容の講義もあり、まだ外部には出せないような内容の話をしていただける学科もあります。一概に全部が全部記録をとって、希望される方というのもひとつはあるかとは思いますが、やはり定員70名に対して授業料をとっている点があります。学生70名に対しての講義という形で、資料を配布、その他に対しての資料提供は遠慮していただきたいと言われる先生がほぼ全員というのが実状です。無料で年1回～2回の講演会であれば考えられますが、レフネック4学科につきましては今後の講師交渉に対して支障があります。昨年も今年も講師への交渉時にそのような話をすると難色を示される先生がほとんどで、事務局としては難しいと判断しています。

運営委員 前向きに考えて全科目について残していくという発想ではなく、個別に先生にあたってみることはできないでしょうか？

事務局 この各学科全て、個人個人にお願いしているわけではありません。1つの学科に対して1人の教授にお願いにあがり、その教授にコーディネートをいただいているのが現状です。各先生にお願いしたとしても、コーディネートをいただいている先生の承諾がなければ駄目ですということになっています。

運営委員 これはレフネックの後々の、過去の財産になっていくので、メディアで残していくということはいいい試みと思いますが、教授からの拒絶とあれば難

しいと思います。

**運営委員** まず、開催されることが第1優先と思います。出来るならば、今後こういう資料はレフネック自身の、大きく言えば川西市の財産だと思います。受けられている方が受講生だけのものとは発想しておられないと思います。受講出来なかった方が見たいということもこれから多々あると思いますので、出来ることなら個々の対応が出来るよう、1人でも資料として残していけるのは必要と思います。  
1年1回の講義で終わってしまうのは凄くもったいないと思います。

**教育長** 今後、事務局で協議して出来るところからまた出来る範疇の所から調整させていただきます。授業料をもらっている部分と、公的な税金を投入している部分もあります。市民全体の財産ととらえるのも当然あると思います。記録も時代の流れに沿ったものだと思います。一度検討させて下さい。

**運営委員** オープン講座、課外講座について市の年間の費用ですが、市の削減、財政云々といわれている中で、大丈夫なのかお聞きしたい。本科は川西の目玉ですので絶対続けていただく方向ですが、ただ、オープン講座、課外講座について先行きはどのようにでしょうか？例えば、パソコンは皆さんが覚えていて人数が少なくなっているのであれば、方向転換が必要だと思いますので、その辺の状況をオープン講座と課外講座に分けてお話し下さい。

**事務局** 予算の面でございますが、来年度例年通りの確保ということで今年度と同じ要求をさせていただきます。  
パソコン講座につきましては、レフネックOBのパソコンの会の方から講師をお願いしておりますので安価な費用となっております。  
オープン講座については、今年度は認知心理学、ファッション変遷史、宇宙科学と3本させていただきました。認知心理学の方は抽選、宇宙科学講座はタイミングもありはやぶさの関係ですか、丁度小惑星イトカワですか、レフネック在校生の応募が多く抽選で、ある程度人数は来ていただいているということになっております。  
それから、課外講座につきましては、本当にパソコンの初級はスキルのワープロを使いこなされているイメージはもっています。その関係で考えていかなければならないと考えております。  
陶芸入門教室につきましては、9名でした。工作室が一杯になるという感じの人数の方にきていただきました。  
郷土史教室の方も、40名弱の方に応募いただいたというような感じで、こちらの方はある程度応募が多かったかなと考えております。

**運営委員** 課外講座の定員はどのくらいでしょうか？

**事務局** 課外講座はレフネック在学学生を対象とし、定員はパソコン20名、陶芸入門教室15名、郷土史教室50名で募集をかけております。本学科の受講料云々の予算の話ですが、本学科につきましては学生の受講料で全て講師謝礼はまかっています。オープン講座につきましては対象が、抽選にもれた方、レフネックとは何ぞやという方を対象にしておりますので、すべて無料という形で、この分につきましては公費でまかっています。なおオープン講座につきましては、講座の内容によって申込みの上下はありますが、ほぼ定員の150名はお越しいただいております。内訳につきまし

てはレフネックの学生70名、一般80名の枠組みの中ですが、一般の申込みが少なければその分レフネックの学生を多めにするという形である程度150名キープしております。なお、一般なり学生なりお申込み頂いた中で当日欠席というのは、やむを得ない方が欠席されるだけで、ほぼ申込み頂いた方は参加していただいている実状です。

**運営委員** オープン講座につきましては一般の方は80名ということですが、今の説明ですと一般の方は無料で受けれるということですね。これは有料にしてはいけないのですか？学生は受講料を払っているのですから、もし厳しいのであればオープン講座の一般の方は有料ということもあるでしょうけど、まあ、人数が減るかもしれませんが。

**事務局** 学科の1年間20講座に対しては受講料は頂戴しておりますが、その中にオープン講座が入っているわけではありません。オープン講座を何らかの形で、財政事情が厳しいのであればすべて有料という話であれば、定員150名に対して学生であれ一般であれ関係なく、有料という形を考えていかなければいけないということは、この数年話題にのぼっております。ただ、なんでもかんでも有料というのはどうなのか、それともう1点、申込みをしたけども、欠席が多いのであれば本当に受けたい方がおられるのになんだ。という声があがってくれば、その辺りの検討も考えられるということが事務局の中でもこの数年話題にあがっております。

**運営委員** オープン講座の場合は、色んな考え方があると思います。150名のうち一般と学生枠を分ける必要があるのか、有料にするか無料にするか、150名という定員は教室の広さによって決まっているのだと思いますが、これが適切な人数であるかということとです。オープン講座に関しましては、私が一般の方からお話を伺っている中では皆さんいい感触をもって受け止めていらっしゃるように思うんですね。楽しみにされている方も大勢いらっしゃると思います。今後検討していただきたいと思います。

**運営委員** 予算は例年通りとおっしゃられたのですが、だいたいどれぐらいでしょうか？

**事務局** レフネックの本科・オープン講座で455万円。課外講座3つあわせて約22万円の予算要求しております。

**運営委員** 陶芸入門教室とか郷土史教室は1コースで生徒は入れ替えですか？それとも連続して同じ生徒が受けることが出来るのですか？どのようになっていますか？

**事務局** 1コース4回という形で、陶芸入門教室は4回で終了となります。

**運営委員** それでは来年はまた新しい方が入ってこられるということですね。

**事務局** 年度で募集をかけます。2年間レフネックで学びますので、同じ方が2年続けて受けたいというのであれば受付けております。

(3) 平成22年度 レフネック16期生の修了式について

事務局 平成22年度16期修了式を平成23年2月19日(土)の午前10時から行う予定です。運営委員の皆さまには改めて1月中旬にご案内をさしあげます。お忙しいこととは存じますが、ご臨席賜りますようお願いいたします。

(4) 生涯学習センターの利用状況について

事務局 平成22年度上半期と平成21年度の半期分とを比較したものです。延べ利用人数は1,702人増加しております。一方、使用料は11,405円減となっております。この要因としては、使用区分が時間制と有料化に伴い経費を節減されるなどグループ事情によるものではないかと思受けられます。また、登録グループの減免が多くございます。登録グループが減免を受けるというのは当センターが地域活動に役立った活動に使用されているのではないかと考えております。センターのご利用については、皆さまに気持ちよくご利用頂くよう日々工夫してまいります。また音や利用人数などの関係で施設としては飽和状態に近い状態もございますが、これからもより一層皆さんに愛される学習の場作りに努めてまいりますのでよろしくお願いいたします。

運営委員 使用料を免除されるグループがあるわけですね。もう一度、どのようなグループが免除されるのか説明をお願いします。免除されるグループは全体のグループ数に対してどれぐらいの割合を占めていますか？

事務局 免除についてですが、川西市や教育委員会が使用する場合におきましては全額免除という形です。  
登録グループは、こちらの目的及び市の施策が合致した場合、減免という形になります。そのグループに関しましては50%の減免、レフネックの修了生によるOB登録グループに関しましては50%の減免という形になっております。

事務局 平成22年度上半期内訳の登録グループ中、減免グループは10グループです。91件というのは述べの件数となります。10グループがこの半年間で使用された件数が91件となります。あと、市利用減免60件というのも述べの件数で、市につきましては約20部署がこの半年間で利用されている状況です。それを減免ではなく普通にお使いになられたらこれだけいるのですよということで記載しております。減免につきましては先程の説明どおりです。  
減免はグループによって異なります。子ども部が管轄しているグループにつきましては、子ども部からの依頼で100%の減免。その他のグループにつきましては、50%の減免という形をとらせていただいております。有料化は今年の4月からとなりますので2年目になります。

運営委員 収入はプールされているのですか？ どのように使っていらっしゃいますか？

事務局 使用料につきましては、全て市の歳入になります。

運営委員 少しずつでも収入があることは励みになりますね。

(5) その他

運営委員 第1回目の運営委員会が学科が終わったこの時期では遅い気がする。質問したり、意見をいったりと少しでもお役に立てればと委員をお引き受けしている。もう少し早い時期にあった方がいいのではないか。

運営委員 運営委員のポジションが明確ではない部分がある。どのような発言を求められているのか。レフネックのことのみか。生涯学習センターの運営まで意見を申し上げられる立場なのか。ポジションが明確ではない部分がある。

運営委員 仕事の内容をどこまで運営委員が見られるか。今は事務局の方で色々な事をしていただいて、その内容について吟味している。  
事務局の方がやっておられて今のペースで問題がなければいいし、あれば考えていかなければならないし、困ったことがあれば私達に話していただいたらいいのではないか。

協議により、以下のとおり確認。

運営委員会はできる限り、早い時期に開催できるように努力します。また、委員会で出された意見も踏まえながら、来年度事業の選定、材料とさせていただきます。

審議会の位置付けは、議論をしていただく場だと思えます。チェック機関ではなくてむしろ、諮問機関的な要素であり、我々事務局が執行機関です。執行機関が定める事業をするにあたって、色々議論をしてご意見を頂くといい位置付けでご意見をいただいた事、全てを実施するかと言えばそうではない。それを参考にして決めていく。そういったまさに議論を重ね、これからどんどん運営委員会の中でやっていただきたいと思えます。運営委員会の実施時期の問題は、当然、議論していただいて変更していったらと思えます。新たな課題、生涯学習センターの運営のあり方そのものを抜本的に変えていくとなれば回数を増やしていくと思えます。報告的な内容が結構ありますが、全体的な運営のあり方の議論というのもあってしかるべきだと思います。今後、皆さまのご意見をいただきたい。  
運営委員会のあり方は、我々は新たな課題をお願いする場合と、今日のような会議の中で議論が出てきて、それをまとめて提言を頂くのはかまいません、もっと自由に活発にご意見を頂けたらと思えます。  
先生へのアプローチについては、色々なルート、個人的なルートも含めてアプローチの仕方はあると思えます。ただ、個人ルートの場合、継続的に確保できるかどうか、そこもやはり我々皆さんに議論をしていただきたい。組織的に、大学の教授を窓口にした方が確保しやすいということも確かにあります。そこも内部で議論しますし、また皆さまにもこういうルートもあるのではないかと議論を頂ければと思えます。

その他特記なし

4. 閉会